

神龍寺所蔵冊子「映画『關東大震大火実況』説明台本」

以下は、曹洞宗寶珠山神龍寺（茨城県土浦市文京町1-27）が所蔵する掲題の冊子（表紙4ページ、中表紙・本文22ページ、計26ページ）を書き起こしたものである。表紙の題名は「關東大震大火実況全五卷」、中表紙の題名は「大正十二年九月／關東大震大火実況全五卷／文部省社會教育課撮影／（東京シネマ商會複製）」となっている。

本冊子の作成者など、作成に係る経緯は不明だが、手書きによる書き込みなどが散見することから、神龍寺に本拠を置いた社会教化団体「大日本佛教護國團」が関わった映画『關東大震大火実況』の上映にあたり使用されたものと推測される。なお、現存の冊子では、元素材である映画フィルムの最終巻第5巻の途中からエンドまでが欠落しており、本文ページの2ページ分が抜けているものと思われる。

書き起こしにあたり、現代の語用や送り仮名と異なる場合や、同一漢字で字体のブレが生じている場合も、できる限り忠実に翻刻している。翻刻不可能な文字は（※）で注記している。ただし、圏点は反映していない。また、赤インクによる書き込みやふりがな、数字や線なども、書き起こしには反映していない。

〔表紙〕

関東大震大火実況全五卷

〔中表紙〕

大正十二年九月

関東大震大火実況全五卷

文部省社會教育課撮影

(東京シネマ商會複製)

関東大震大火實況「フィルム」内容

第一卷

大正十二年九月一日朝、土砂降り（どしゃぶり）の空俄に（にはかに）霽（は）れて、日は麗（うらら）かに都大路に照（て）りそひ、二百十日の厄日（やくび）も事なきを喜びつゝ、平和に食卓に向はんとする時しも、午前十一時五十八分、突如烈震（れつしん）は帝都を襲つた。地は裂（さ）け家は倒れ、遁（のが）れんとすれば不断に来る餘震の為におびへて足進まず、家々の瓦は落ち柱は折れて其の下敷となる者數を知らない。大建築物の櫛比（がならび）して遠が壮麗を誇りし丸の内一帯も瞬く間にあはれ惨たる巨罅（すがた）を生し比較的震動（しんどう）の緩（ゆる）かつた山の手方面に於てさへ崩壊した家屋夥（おびたゞ）しく（牛込方面駅附近は地破れ特に甚し）。四谷小石川方面は火災こそ免れたが、至る所家屋崩壊して或は軒（のき）に打たれ或は梁（はり）に敷かれて哀れにも悲鳴を聞くさへ物凄い光景であつた。最新式建築として人目をそばだてた丸の内ビルディング、日本郵船会社、東京會館などの鉄筋コンクリート建も壁は裂け柱は曲つて見るも無惨な姿となり、今赤壁と稱せられた御茶の水も土崩壊滅して惨たる一場の廢きよ（※足へんに虚）と化した。

地の揺ぎ相踵いで止まず不安の色におびへて只管平穩を祈りつゝありしも見る／＼火災は四方に起つて都は今を限りの火焰の海と化した。綿を吹きたるが如き濛々たる空色は家を焼き人を焦いた呪いの煙である。此処を先途と消防隊が必死の努力も唯一閃の火炎に消えて手を染むる術もなく、市内八十餘ヶ所から燃え上つた猛火は、折からの烈風にそゝられて力を得、猛り狂ふて凄惨を極めた。強震と同時に水道鉄管の破裂の為め全市は、一齊に水を断たれて消防意の如くならず、僅かに城濠の水を汲み上げて死力を盡した蒸氣ポンプも猛火の前には何の甲斐もない。帝室林野管理局の如き瞬く間に焼け落ちてしまった。一方第一震と同時に火を發した神田方面は九段坂上から瞰下すれば黒煙天に冲して物凄く、火の唸り、風の喚び、残虚の火焰渦をまきて生死も知らぬ阿鼻叫喚、父母、妻子、兄弟の名を呼び交はす隙だになく右に走り左に往き火に追はれ烟に咽び家財道具も何のその、唯身を以て逃げ惑ふ有様は眞に此の世のものとも思はれない。歡樂の巷浅草公園に於ては束の間に変り果てたる有様迫り、来る猛火を前に人々は唯茫然・・・として為

す所を知らず。火は既に附近一帯を嘗めて向島サツポロビル会社の大建築も早や黒煙の包む所となつた。丸の内方面では警視廳の一角から吹き出した焰は、忽ちその全面を包囲して早くも既に帝都警備の根據地を無からしめ焰は次で隣せる歡樂の館帝國劇場も一矩の煙となり果てた。

今の今まで華の都の大東京は恐ろしくも酸鼻の極を盡して阿鼻叫喚の巷と化したか、かゝる混雑の際に早くも激震を冒し火焰をあびて重傷者を病院に運び、或は軽傷者には應急の手當を施した。就中山の手方面にては青少年團の活動最も目醒ましく、逸早く救護隊を組織して倒壊家屋の下敷となつた人々を救ひ出し身を以て罹災者の救護に努めた。

今や帝都も大震大火の爲めに其の大半を失ひ、二方里餘の面積、四十二万戸の家屋を焼かれ、百六十万近くの罹災者、八万の傷ましき死者を出し行違不明者二十有餘万人に及ぶ。實にその惨害の甚なる有史以来の一大変災を現出した。思ひ起す欧州大戦の惨禍を。天を覆ふ猛火、土に敷く死屍、凄愴眞に面の向けやうもない。フランス・ベルギーの廢墟にも似た佛英和女學校々庭に独り淋しく残つたジャンダークの彫像に禱りを捧ぐる尼僧の姿、あはれ文教の府も今は空しく数基の暖房跡をしのび、形ばかりの標石に名残を止むる教育博物館、嘗ては偉觀帝都を壓せしニコライ殿堂の無惨の骸。徳川三百年文教の淵源であつた湯島聖堂の跡、さては僅かに赤門を残してあはれ医科理工科各教室並に七十余万卷の貴重な書冊と研究資料とを焼失した東京帝國大學、何れ劣らぬ惨害目も當てられぬ有様である。

親知らず子知らずと都大路の繁華を誇つた須田町附近は、身の毛もよだつ生死の惨話に残り、万世橋は廣瀨中佐の銅像をあますばかり、往き交ふ避難の人々は只無心に廢残の駅を眺むるのみ。神田明神も狂暴の火手の見舞ふ所となり、御神体は立退きの止むなきに至つた。見渡せば神田一帯ありし日の面影何処、京橋もなければ日本橋もない。流行の魁三越呉服店に残るは名物の高塔越の金文字ばかり。お江戸日本橋も半ば崩れ、丸善書店の残骸物凄く、白木屋呉服店は只一片の焼土と化し、骨のみ残る電車や汽車の残骸を路傍に止むるのみ。

家屋の倒壊と襲ひ来る火煙とに身を以て遁れた數多の避難者は極度の恐怖と疲勞と飢餓とに、生きた心地もなかつたが、三日も過ぎて翌四日辻々に貼られた號外は坐るに人々の感激の情を起さずに置かなかつた。

天皇陛下は痛く今回の大變災に御軫念あらせ畏くも御内帑金一千万圓を御下賜せられたのであつた。同時に摂政宮殿下よりは『今回凶らずも稀有の大地震は東京及近縣を襲ひ、之に加ふるに大火災を以てし、其の惨害の激甚なるは實に國家生民の不幸なり。予はその實状を見聞して日夜心痛に堪へず。殊に今日罹災者の境遇に対しては心深く之を傷む。茲に内帑を頒ちて其の痛苦を慰めんと欲す。官民夫れ協力して適宜應急の処置を為し、以て遺憾なきを期せよ』との優渥なる御沙汰書を賜はつた。重ねくの聖恩の洪大なるに唯感泣するばかりであつた。

震災を遁れた罹災者は或は家を求め親戚故旧を尋ね、火焰に追はれて親子骨肉生別離散し、親は子を尋ね、子は親を求め、妻は夫を、夫は妻を探し求めて右往左往し、餘煙未だ消えぬ焼野原に哀れはいとゞ増り行くのであつた。就中、本所深川方面兩國橋附近は、見る目も痛ましい有様で、災害の爲めに負傷した者は言ふまでもなく、疲勞と絶食の爲に急病を發した人々が、警衛の軍隊に救はれて橋を枕に横はつて居るなどその光景は實に悲惨の極みであつた。又浅草方面歡樂の巷も、今は死の陰に隠れて、在りし日の面影もなく、仲見世附近、奇蹟的に焼残された浅草觀音堂の慈悲の手に幾千の罹災者が収容されて万死に一生を得たと喜んで居るものもある。

下町一帶の罹災者の唯一の避難所となつた上野公園は、焼け出された人々の群に満ちて、南洲翁銅像に限なく貼られた生存避難の通知の紙片には一枚一枚に幾多の涙が注がれてゐる。家族は居らぬか。友人の生死や如何にと、不安の心を紙に記し旗押し立て、呼はり歩く人々。疲れに疲れて上野動物園前の石に一時の休養を貪る人々、皆悲しい心を胸に秘めて、語るも聞くも涙の種ならぬはない。木に結び付けたさゝやかな机、誰が家の子であらう。讀本をさして語り合ふ姉妹二人、母や何処、父何処と探し求める哀れさ。或は全身に受けた火傷の痛みも忘れて父母を慕つて只管に泣く稚子もある。上野大佛の首も落ち、石の地藏も横様に伏し、東照宮の石燈籠は算を乱して倒れて居る。其の間に造つたトタン板の假小屋、生き残つた男一人倒れた石燈籠

を早速の竈に馴れぬ炊ぎをするも哀れを誘ふ。雨風を凌ぐよすがにもと、未だ熱氣の消えぬトタン板を引いて行く人、一族の者が雨露を防いで、寝られぬ夜半をせめてもの手枕に一睡の夢を結ばんと心の心ばせか。中には焼け残つた列車を假の宿りに避難してゐる者もある。總ての情景一として涙の種ならぬはない。

此の混乱の間にあつても、應急救護の手段は至る所に講ぜられ、暖い一椀の重湯は絶食の身にとりて山海の珍味よりも尊く、受ける人々は涙と共に啜つて行く。或は一握の飯に一族数人の者が一日の飢を凌ぐ糧となり、破れた風呂敷を擴げる老人、黒いハンカチに包む若者、焼け残つた片袖を差出す乙女もあれば、缺けた茶碗を大事に抱へて来る子供もある。水道は絶え、井水は渴れて蘇生の水一滴／＼を求むる術もない昨日今日、糸よりも細い水の滴に列をなして順番を待つ人々の心や如何に。

一家水戸へ行くと貼紙を残して故郷の親戚故旧を尋ねんと疲れた足を引摺りながらとぼ／＼と汽車路を歩む人々の群、鉄道省必死の努力に僅かに通じ得た汽車には屋根といはず、或は機関車の先迄も悲惨な人々の乗るに任せて悲しき心、重たげに故郷の方へ去つて行く。

這般の大震災の中に組織せられた新内閣の諸公は、寢食を忘れて、災害の善後を策するのであつた。首都官邸の閣議へと急ぐは井上大藏大臣續いて後藤内務大臣、岡野文部大臣。

閣議を終へて今、皇后陛下日光より御還啓上野驛御着を奉迎に急ぐ各大臣、先登は山本總理大臣次は財部海軍大臣、田中陸軍大臣、平沼司法大臣、伊集院外務大臣、井上大藏大臣、岡野文部大臣、後藤内務大臣、犬養逋信大臣、田農商務大臣。

今回の震災に際しては、直に災害地帯に戒嚴令を布かれた、司令部は三宅坂なる参謀本部内、遙に銀座一帯の焼野原を俯瞰しつゝ、庭前には露營のテント、傳書鳩の車、其の間を劔光帽影急しく往復する、當時の戒嚴令司令官福田大將は正に不眠不休の活動である。

震災救護事務局は、焼け残つた内務大臣官邸内の内務省仮事務所に置かれ、バラック建の事務所の中で治安維持、暴利取締、支拂猶豫の三大緊急勅令の適用に全力を盡して、食糧配給の圓滑をはかり、門前に出入する自働車数十臺、戦端の様に忙しさに緊張振り、其の間山本首相は事務局を訪問し、後藤内相と共に局内を巡視して督励に務め、府市の救護と連絡呼應して萬遺漏なきを期した。一方警視廳は、妻子を失ひ家財を焼いてもこれを顧る隙なく只管保安の職責に映掌して、晝夜を別たさず活動を續けて居る。

幸いに火災を免れた、山の手方面では自警團を組織して、一時混乱の爲め手薄となつた警察力を補ひ、一面には火の用心等の警備に従事した。震災の報一度全國に傳はるや、舉國一致博愛救護の熱情は翕然として災害地に集中した。陸路の交通機関を破壊された爲め、あらゆる救恤品は海路一途芝浦海岸に集り、就中海軍の目醒しい活動に依つて、或は軍艦に、或は船舶に、食糧其他の日用品並建築材料等を満載輸送した。之が爲めに當時罹災地に於ける民心を安んぜしめた許りでなく食糧の配給は潤澤なるを得、罹災民は辛ふじて飢餓を免れ得たのである。而も啻に日本内地ばかりでなく米國の偉大な同情、英・佛・露・支・等世界各國からの人類愛の發露は芝浦海岸に山と積まれた救護品の中に籠つて居る。

涙の出る様な同情の籠る慰問の品々は、全國津々浦々の人々から送られ、これを各種團體の手に依つて、罹災者の手に渡される事となつた。或は愛國

婦人會の如き、下田會長率先して配給の任に就き或は茗溪會の如き全財産を挙げて慰問救恤に盡した。淺草第一高等女學校の焼跡での配給所では罹災者数丁の列をなして静に配給されるのを待つて居る。在郷軍人などは馬車に衣類を満載して漸く寒さを覚へる今日此頃焼跡を巡つて衣類の給与に務めて居る。

行衛も知らず離散して了つた骨肉故旧の消息安否を知らしめる為め帝國大學本部では、末廣博士を團長に大學校内と上野公園とに情報部を設けて、大學生や高等學校生徒等が尋ね來る人々に對して色々の情報を懇切丁寧に一々案内をして居る。

情も温い食事を哀れな罹災兒童に配給する女子大學櫻楓會員道行く人に「御茶召し上れ」と茶の湯の接待をする健氣な中學生（府立一中）、こうした同情博愛の發露は、至る所で見る事が出來た。之と同時に惨しい傷病者に對しては出來得る限りの手厚い看護を施し、可愛い女の手には幾多の傷病者を勞つた尊い犠牲の物語は、枚擧に逞がない。日本赤十字社は直に救護の手配をつくして焼け爛れた人、痛手に泣く我が児を乳母車に乗せて來る人、杖を力に歩みを運ぶ人等を應急の自動車に收容して連日連夜救療の手を盡くした。陸軍々醫學校では破壊された校舎に傷病者を收容して岩田校長はじめ切開に注射に力の限りを盡した。殊に重傷者を收容せる帝國大學附屬病院内の悲惨な有様は誠に見るに忍びない光景であつた（近藤、塩田両外科）。血に染んだ繃帶、紫色に焼け爛れた手足、死者に勝る無惨な光景、惨死した母の乳を求めて泣く哀れな嬰兒が看護婦の手に抱れ乍ら亡くなつた母親の胸と思つて牛乳の乳房を離れ兼ね、吸い乍ら眠る有様何れか涙の種ならぬはない。

悲惨の中にも悲惨を極めたかの被服廠跡、数万の死者に涙の回向、「どうぞ皆さん参拝して下さい」と香華を賣る人も買ふ人も皆此の広場で親兄弟に生き別れた人々であらう。茫々たる原一面、秋風寒く吹き渡り、耐え難い異様の臭氣は、線香の煙に交つて、南無阿彌陀佛の聲も涙に咽び、合掌の手撼へて面を覆ふ、見渡せば嗚呼痛ましい幾基の骨の山、読經の聲鐘の響坐るに人世の無常を思はしめる。

こうした一家全滅、親兄弟に死別れた悲惨の陰に、只生き残つた人の子一人、お父さんも、お母さんも、兄さんも、姉さんも、皆死んでしまいましたと目に一杯の涙をためて答へる、よる邊ない孤児を收容した青山女學院を訪へば、一時の遊戯に淋しい笑顔を作る無邪氣な子供心のいぢらしさ、独り淋

しく玩具に遊ぶ子もあれど、ありし日の妹を思つてか他の子の髪をなで上げてやる少女もある。

被服廠三萬二千の生地獄から僅かに生き残つた四人の子供、中に乳母が死を以て守つた血の懐に辛ふじて一生を得た四歳の幼児も居る。

僅か一晝夜の間に人類の力の結晶である、あらゆる文明の機關を破壊し、幾十萬の生靈を奪つた大惨害は洵に怖ろしい力である。

さはれこれにひるまず屈せず人類の努力はなされなければならぬ災害の煙も絶えぬ中より發揮さるゝ建設の努力こそ最も尊むべき大精神である。罹災地は云ふに及ばず北は北海道より南は臺灣迄、青年團在郷軍人等を初め、幾多の団体は罹災地救護、帝都復興の為に奮起した。

大きな荷物を肩に、陸路幾十里を歩いて来た朴訥な青年團員は明日をも待たず、其の日から、跡片付に従事し、朝鮮人の団体相愛會の如きも會長李起東初め幾百人の團員挙つて無報酬で焼跡の片附に努力をなすべき旨申出で、國粹會員は自ら進んで死体の取片附を志願した。中にも最も目醒しきは工兵隊の活動で、電線電話の架設、續いて破壊された全市の橋梁の架設等、或は水に入り土にまみれて必死の力を盡した。厩橋、吾妻橋、神田橋其他大小幾十の架橋、實にその努力の賜であつた。中にも、危険と困難と莫大の経費とを費やしたのは、各種残存建物の爆破であつて、最も苦心の存する所であつた、淺草十二階の爆破には撮影技師は決死の冒險を敢てして、百五十メートルの近距離から撮影したものである。震災の爲め各方面に於て数十萬の失業者を生じたが、東京市は逸早く職業紹介所並に人事相談所を設けて之が救済に任じた。

こうした大災害の後を受けた人は、思ひ／＼の業務に生活の資を求め或は各所に現れた林間理髪或は幾百の大道の飲食店に、中にも最も奇抜なのは昨日迄荷物を積んだ馬力が、今日は乗合の馬車と早變つた事で、見渡す限りの焼大路に唯一の交通機關となつたのもおかし。見よ、満員の乗合自動車、数丁に亘る列をなして順列に乗り込む電車の有様、そこには災害の尊い教訓が含まれて居るではあるまいか。

力強い建設へ、之が復興のモットウである。交通の復旧に全力を盡す電車工夫の汗も尊く、馴れぬ手にカンナを握つてバラツクの建築を急ぎ釘を打つ槌の音にも力強い響が傳はる、バラツクや天幕は罹災者が唯一の家で、而も畏くも宮城前の廣場新宿御苑其他の御用地を夫々開放せられ、此所に出來た天幕の町、加ふるに日々送らるる各地からの慰問袋、糧米、副食物、衣類等様々の物の救護、今更に人情の温かさを思はずには居られない。

罹災児童に對する教育第一の意気は、早くも徹底して日本少年團聯盟は、野外少國民學校を日比谷新音樂堂其他隨所に起し全國の小学児童から罹災児童へ送られた筆、墨、手帳に力をこめた教育を授ける事が出來た。

關東を襲ふた今回の大惨害は、横浜を中心に、湘南一帯に於て最もその凶暴を逞ふした。廢殘見る影もない横浜市、先ず驛頭に一步を踏み入れて其の惨狀に驚く、プラットフォームは、たゞ鉄筋の残れるばかり、税關附近の光景に至つては、悲惨言語に絶し、見渡す限り全滅し盡した市内には、人の影さへ稀である。僅かに焼失を免がれた倉庫も、殆んど倒壊して用をなさず、税關から山下町附近を望めば、たゞ廢壘墟壁その惨たる影を水に映じて居るのみである。

世界に名を知られたグラント・ホテルの跡を辿れば、鉄橋は落ち土地は陥没してホテルに残るは只炊事場の煙突一基のみ遠く埠頭を望めば、影もないメリケン波止場、五六の船の淋しく碇泊してありし日を忍ぶ面影もない。

一步山下町通りに進めば昨日迄洋風の街路に遠が殷賑を極めた内外商館の跡方もなく、幾多の死骸を包む瓦礫は山と積まれて歩む術もない光景である。

市役所が必死の努力も、手の付けやうもなく、跡方もなき櫻木町驛の焼跡には、罹災者が乗車証明を求めて、淋しく列をなして居る。水!!!水!!!一滴も尊い此の水は、横浜關内唯一の給水所であつて、幾十萬の人々に運ぶ水船は、命の親にも増して貴重である。

陸路を断れた湘南一帯は、無殘にも破壊し盡くされ横浜埠頭を唯一の頼りに糧食の荷上げに、陸海軍が必死の努力をして居る。計量機の傾き壞れ臨海鐵道の破壊せる埠頭は痛ましき迄に壞されて了つた。復旧の努力に働く米國水兵の姿、壊滅の横濱には一入の痛ましさを増して居る。

嗚呼顧れば永久に忘れ得ぬ大災害の日、大正十二年九月一日百十五億余圓の財寶は一炬の煙と化して、十余萬の生靈一瞬に滅し、一府四縣を通じた世界未曾有の大災害、夕暮れ迫る焼野原に立てば、一陣の凄風慘として衣を拂ふ。

而も時は午前十一時五十八分四十五秒大震に停止した儘中央氣象台の時計は長へに悲惨の時を示して居る。

第五卷

震災當時、両陛下には日光田母澤御用邸に御滞在中であらせられ、攝政宮は赤阪離宮に、秩父宮は那須野に（※「秩父宮」以下、黒線で削除）いらせられたが些かの御障りもなく御安泰に亘らせられた事は、國民の齋しく慶福に堪へぬ處である。畏くも宮城内部にあつても被害の箇所も少くないと洩れ承るが、今まのあたり二重橋、御車寄など嚴として存するを拝しては、さながら心強さを感じること國民の至情であらふ。

皇后陛下には、九月二十九日日光御用邸より御還啓あり、午前十一時二十分廢殘の趾を僅にしつらへる上野停車場に御降車あらせられ、直に上野公園に玉歩を進められ後藤内相、湯淺警視總監、立花參謀總長等御案内申上げ、遙に一面焼野原を御俯瞰あらせられた。

陛下には次で十月二日午後一時東京帝國大學附属病院に御成りあり、ここに收容せる傷病者を親しく御慰問遊ばされ、仔細に御視察

（以下、本文ページ欠落）